



◆間伐の早期実施について

1. 樹が混んでいる場合は間伐を実施する。
2. 抜根をするときは残存樹の根群を痛めないように配慮する。

【土壌関係】

◆深耕について(物理的性質の改善)

排水の悪い園では特に有効土層を深め、土壌の通気性や透水性を良くして根の活動を活発にさせる事が重要です。若木で伸びの悪い樹や、水田の際等は実施する。

1. 時期: 落葉期から年内に実施する。できれば11月中に実施したい。
※遅れると細根の発生が少なくなり、春先の干ばつの害を受けやすくなる。
2. 対策
 - 1) 条溝法
 - ①若木や排水不良園に適している。
 - ②深さ40～50cm・幅30～40cmの溝を樹間に掘る。
 - ③1年目縦・2年目横と場所を変えて繰り返す。
 - ④根の広がりに対して直角の方向に処理をする。その際は 根の先端をわずかに断根する程度とする。断根が20%を越えると生育障害の原因となるので、注意する。
 - 2) タコツボ法
 - ①深さ40～50cmの穴を掘る。
 - ②樹幹から2m程度の場所に穴をいくつか(4～8カ所)掘る方法。
 - ③毎年掘る穴の場所を移動させる。断根が少なく成園向き。
 - ④ただし排水不良園では掘った所に水が溜まりやすいので、排水対策も併せて行う。
 - 3) 深耕後は、有機物等の土作り肥料を投入して下層まで改良する。
 - 4) サブソイラーやバックホーを利用する。
 - 5) 1度に行うと断根により樹勢低下となるため、5～6年かけて樹幹周辺を一巡できるよう計画的に行う。

◆土壌pH(酸度)の調整について(化学的性質の改善)

作物が適正に生育し、養分が吸収できるようになるには、作物毎に適正な「pH」範囲がある。

近年の土壌診断の結果は、適正範囲外が目立っており、特に適正範囲より中性に傾いている状態となっているため肥料養分の吸収や根の張りが悪くなっている。

1. pH(酸度)の適正範囲と過去の検査結果

品目	適正範囲	備考
りんご	6.0～6.5	苦土(マグネシウム)欠乏が出やすい状況
もも	5.5～6.0	マンガン欠乏などが出やすい状況
ぶどう	6.5～7.0	
プルーン	5.5～6.0	
梨	6.0～6.5	
あんず・梅	5.5～6.5	
オウトウ	5.5～6.0	

2. 土壌診断の結果 pH(酸度)が高い場合

1) 対応方法

- ①pHを上げる資材(炭酸苦土石灰・サンライム・発酵けいふん等)は、施用しない。
- ②土壌pH降下剤の施用を行う
・土壌pH降下剤の施用時期: 基肥と同時施用でも良い。

・施用資材及び施用量:ガッテンペーパー ⇒ 10a当り5袋(50kg)

2) 留意事項

- ①樹冠の根のある範囲まで施用する。
- ②施用後、耕うんできる場所は、軽く実施し、土壌と混和する。レーキでならず程度でも良い。
- ③主成分は硫黄であるため、施用の際は手袋・マスク等を必ず使用し、取り扱いには十分注意する。
目に入らぬよう注意し、目に入った場合等は、すぐに水で十分洗い流す。
- ④石灰(カルシウム)成分のある肥料と一緒に施肥すると効果を相殺してしまう。
- ⑤一度施用すれば、適正範囲となるわけではない。土壌診断の結果により継続的施用が必要
- ⑥効果がはっきりするのは施肥してから1か月程度後になる。

3. 土壌診断の結果 pH(酸度)が低い場合

1) 対応方法

- ①pHを上げる資材としてサンライムプラスを施用する。
・施用時期:基肥と同時施用でも良いが、できれば2週間前に施用した方がよい。
・施用量 :3袋/10a 当たり 状況により調整する。
- ②留意事項:新植園ではpHが低い場合が多いので施用する。

◆ 土壌改良材(堆肥)の施用について(生物的性質の改善)

一般的堆肥と同様に施用量が多いときは園内全面に用い、少ない量では樹冠下(根域)を主体に施用して腐植等有機質の補給を行う。

1. 堆肥の種類

資材名	成分(%)	特徴
グリーン長野堆肥	窒素 1.1 ・リン酸 0.8 ・加里 0.3	炭・バーク主原料に牛糞を配合
エアポイント	窒素 1.07・リン酸 2.18 ・加里 0.88	コーンコブ主原料に鶏糞と微生物を配合
みのり堆肥	窒素 0.6 ・リン酸 0.6 ・加里 0.6	樹皮(バーク)主原料に牛ふんを配合
スーパー腐葉	窒素 0.79・リン酸 0.25・加里 0.49	広葉樹の枝葉

2. 施用量:10a当り1~2トン程度を施用する。

連年施用する場合は礼肥・基肥を減肥する必要がある。堆肥であっても窒素成分はあるので、施肥量が多すぎると遅伸び・着色遅れ・成熟遅れなどの原因となるので注意する。

3. 草生栽培園では施用後の耕運を行わなくてもよい。

◆ 果樹の施肥基準について(共通事項)

1. 基肥については各果樹情報や施肥防除の手引【果樹編】を参照。
2. 土壌診断を積極的に活用し、その結果から適正な施肥に心がける。
近年の土壌診断の傾向は、土壌PHが高い(7.0の中性に近づいている)、石灰・リン酸・加里過剰、苦土・微量元素不足です。
3. 施肥基準は成園・成木を基準にして記載されているため、幼木は3分の1程度、若木は2分の1程度を目安に実施する。ただし樹勢の強い若木は、当面窒素成分を無しとする。
4. 樹勢・樹齢・生育状況や土壌検査の結果から施用量は増減する。

【病害虫関係】

◆ 落葉処理について

色々な病気は被害葉で越冬し来年の発生源となるので、落葉を集めて土中に埋めるか焼却する作業を徹底する。尚、腐敗果実(ミイラ化したものなど)も園内に放置せず、きれいに処理することが大切であり、地際部は敷きわら等を取り除き、きれいに整地しておく。

◆白紋羽病対策について

徒長枝の伸長不良・早期落葉・弱樹勢の場合はモンパ病を疑い、根元を掘り起こし菌の有無を確認する。紋羽病の発生が見られる樹は、防除(灌注)を行う。

1. 灌注時期:休眠期
2. 使用薬剤:フロンサイドSC
3. 灌注量:1樹当り 100~200ℓ(樹の大きさによって調整)
4. 作業手順の例
 - 1) 樹の周囲を半径1m・深さ15cm程度掘り上げる(樹の太さにより調整)
 - 2) 腐敗した根は切り取り、感染部分は削り取る。
 - 3) 薬液で主根を洗い流すように灌注する。
 - 4) 灌注しながら埋め戻す。土と薬剤をよく混ぜながら行う。
 - 5) 最後に土で覆う
5. 使用方法

品目	使用倍率	収穫前日数	使用回数
りんご	500~1,000倍	収穫45日前	1回
りんご ※苗木植え付け時	500倍	20分間浸漬	1回
もも・ネクタリン	500~1,000倍	収穫30日前	1回
ぶどう	500~1,000倍	収穫21日前	1回
梅	500倍	収穫後から開花前・ただし、収穫60日前	1回
梨	500~1,000倍	収穫30日前	1回
おうとう	500倍	収穫30日前	1回
プルーン・杏	500倍	収穫後から開花前・ただし、収穫60日前	1回

【その他】

◆農薬登録販売終了・登録失効予定のお知らせ《果樹関係》

影響の大きい品目もあり、順次防除暦についても、変更していきます。

農薬名	販売終了予定時期	内容
ダイアジノン水和剤 34	未定	令和9年10月有効期限切・登録失効予定
スプラサイド水和剤	すでに販売終了	すでに有効期限切
ダーズバンDF	すでに販売終了	令和7年10月頃登録失効予定
オルフィンフロアブル	すでに販売終了	令和6年10月頃登録失効予定
ベフラン液剤	令和6年予定	令和7年10月頃までに登録失効予定
ポリベリン水和剤		令和7年10月頃登録失効
スミチオン乳剤	果樹登録削除	令和8年9月末登録変更
サイアノックス水和剤	令和7年度9月末	未定
スミチオン水和剤40	令和7年度9月末	未定
ガットキラー乳剤		
ガットサイドS		
ラビキラー乳剤		
トラサイドA乳剤		
ジョンカラープロ		

※登録失効時期は、前倒しになる場合があります。

※啓発のため、過去にお知らせした内容も含んでいます。

※現在は、防除暦に含まれていないが、過去に使用実績があるものも含んでいます。

◆農作業に係る留意事項について

地域住民より苦情が寄せられています。同じ住民として、配慮しながら農作業をしましょう。

1. 農機具利用（スピードスプレーヤ・動力付噴霧器・爆音機等）の際は、日中も含め特に極端に早い時間等の騒音に注意する。

特にこれからの収穫時期は、爆音機の爆音（バードガードなども含む）による苦情が、毎年県及び市へ報告されます。

- ①住居から直線距離で200m未満の位置で使用しない。
 - ②200m以上離れていても設置期間を必要最小限にし、近隣住民の生活環境に十分配慮する。また、筒先を住宅地に向けないように配慮する。
 - ③早朝・夜間には使用しない。使用時間は日の出から日没までとし、住居がある場合は睡眠の妨げにならないようにする。
 - ④爆音機に代わる防鳥網・テグス（糸）など使用する。
2. 子供たちの登下校、通勤等の時間等、薬剤散布に注意し、対策を実施する。
 3. 近隣に住宅等ある場合は、住宅や洗濯物への飛散をしないよう、配慮しましょう。
 4. 剪定枝の焼却は、消防書への届け出を必ず行い、大きな火種や煙に注意（凍霜害資材の燃焼）し、適正な処理をしましょう。

※薬剤防除や焼却は、必要に応じて近隣住民に事前にお知らせする等も実施しましょう。

5. 熱中症対策

農作業中の熱中症を予防するため、炎天下の長時間にわたる作業は控え、日除け対策を万全にする。

高温が続き疲労が溜まっていると思われますので、「農作業の安全」に対する意識を常に持つよう心がけ、農作業中の事故を起さないようご注意ください。

◆果実袋処分について

園内に果実袋が落ちたままの園が散見される。

近隣の園や住宅から「風で舞って来て困る」との苦情が寄せられる前に、処分をお願いします。

◆盗難に注意しましょう

各地で農作物の盗難事件が発生しています。

今後も盗難される可能性があるため、収穫間際の品種は特に気をつけ、地域ぐるみで自衛手段を講じてください。また、農業資材・農薬や農機具の盗難にも気を付けるように管理をお願いします。